

1 全体計画

学校の教育目標

- ◎考える子ども
- 思いやりのある子ども
- たくましい子ども

平成30年度学校経営方針

- 主体的・対話的で深い学びのある授業の展開
- 基礎的基本的な学習内容の確実な定着
- 地域の教材化、地域人材を活用した授業の実践
- 相手の立場に立って考えられる子どもの育成

本校の捉える「確かな学力」

- 基礎基本の確実な習得
- 主体的・対話的な学習
- 学習の振り返りと学びの軌跡の見える学習

平成30年度の指導の重点

〈各教科〉

- ねらい・指導・評価の一体化した授業を展開する
- 考える子どもを育成するために問題解決型の学習、探究型の学習を展開する
- 見方・考え方を働かせ、子どもに目指す資質・能力を育むために主体的・対話的で深い学びのある生活科・社会科の授業を展開する

〈特別の教科 道徳〉

- 相手の立場を考え、相手の気持ちを思いやる心情や態度を育てる
- 人間関係の深さや意見の相違を乗り越え多くの人に親切な行為を行う態度を育てる

〈特別活動〉

- 自主的・実践的な活動を充実させ、集団活動を通して互いを認め合い、協力する態度や児童相互の望ましい人間関係を育てる。

〈総合的な学習の時間〉

- 一人ひとりが人、自然、社会とすすんでかかわり合う中で、問題解決型の学習を通して、主体的に追求し、解決し、分かりやすく表現する力を育てる

- 地域や民間企業などの外部の人材を積極的に活用し、体験的な学習を展開する

〈生活指導〉

- 基本的な生活習慣の定着を図る
- 保護者や地域諸機関と連携し、いじめや不登校等の未然防止・早期発見・早期解決・対応に努める

〈進路指導〉

- 全教育活動を通し、子どものよさや可能性を認め、伸ばし、自らの目標や課題に向き合う努力をしていく心情を育てる

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上の算数少人数指導(習熟度別)による学習指導の形態づくり ・若手研修を中心とし、OJTを活用した組織的な授業力向上への取組 ・任期付短時間勤務教員による学習支援と放課後補充教室の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選、授業時間の確保と1単位時間の充実 ・谷戸っ子の約束の見直し ・オープンキャンパス、乗り入れ指導等の小中連携の取組 ・校内研修の参加等の保幼小連携の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の積み重なっていくノートの作成と記録の蓄積 ・各学力調査の結果の活用 ・自己評価、相互評価の活用 ・評価規準や方法を明確にした指導と評価の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・社会科の授業改善と思考力の向上 ・生活科・社会科を通しての主体的・対話的で深い学びの授業の創造と他教科・領域・総合的な学習の時間への応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教材化、地域人材を活用した授業の実践 ・校公開や行事等で保護者や地域からの感想の活用 ・外部アンケートの活用 ・保護者による読み聞かせ等家庭と連携した学習の展開

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点 ○ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養う。 ○ 基礎・基本の確実な定着を図り、発言や話し合いなど各教科の核となる学習活動を系統的に指導する。		話す・聞く力	書く力	読む力	言語についての知識・理解・技能
	2年生	83.6	62.7	55.2	77.6
	3年生	66.0	52.8	75.5	73.6
	4年生	67.9	77.4	79.2	75.5
	5年生	77.6	81.0	87.9	74.1
	6年生	72.5	86.3	74.5	76.5

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の学習を終えたが、平仮名が定着していない児童が各クラスに4～5名いる。また、濁音や半濁音、拗音促音などの使い方が身に付いていない児童が5割程度いる。 音読に対して意欲的であるが、拾い読み、たどり読み、全く読めずに支援が必要な児童が各クラス2～3名ずついる。 言葉への興味関心は高い。 文を書く時に、句読点の打ち方の間違いや忘れがまだ目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の「は」「へ」「を」などの助詞や促音の使い方を正しく身に付ける必要がある。 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら読む力を身に付ける。 「読むこと」が苦手な児童への支援が必要である。 授業中ノート指導を多く取り入れ、文を書く習慣をつけていく必要がある。また、語彙を増やすための工夫も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文字や漢字を使って言葉集めをしていく。 視写やプリント学習などを通して、言葉の表記の仕方について繰り返し指導を行い、基礎基本の定着を図る。 挿絵や写真を活用しながら、内容をきちんと読み取れるようにする。 朝の時間に読み聞かせをしたり、図書室の時間を活用して読書活動を充実させたりして読書に親しませる。 音読の家庭学習を継続し、児童が文字に触れる機会を確実に増やしていく。 日記や観察カード、ミニ作文の取り組みなど文を書く機会をたくさん設定し、句読点の打ち方、かぎかっこの使い方を学ばせる。場面に合った言葉を伝えたり、言葉の使い方を提示したりして、語彙を増やせるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 話す・聞く力の正答率が83.6%と区の達成率よりも上回っている。 読む能力、言語についての知識・理解・技能については、区の達成率を下回っている。 漢字や音読、読書については宿題や朝学習を活用して、繰り返し取り組んでいる。 説明的文章を自力で読み、書き抜いたり読み取ったりすることについては、苦手意識をもつ児童が2割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間や事柄の順序、文章の組み立てを考えながら、内容を読み取る力を身に付ける。また、人前でも自己の考えを述べられるようにする。 情報を正しく読み取って活用できる力を付ける。 読書や音読を通して、語彙を増やし、文章を書く中で活用できるようにする。 自分の思いを文章に書いて表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の読み取りで、文章の組み立てを考えながら読みを深められるよう、除述に沿って読み取る指導を繰り返す。また、ペアやグループで自分の考えを伝える活動を通して、考えを交流し、学びあえる場を積極的に設定していく。 ワークシートを活用し、情報を読み取る力が付くようにする。 朝読書や図書の時間を活用し落ち着いた本を読むことで読書量を増やす工夫をし、児童が活字に触れる機会を多くする。 週に一回、日記を宿題とし、書く活動を増やす。書く題材が決まらない児童がいるので、定期的に題材の見つけ方についても助言をする。称賛するコメントを必ず書き、書いて表現することの楽しさを味わうことができるようにする。また、書けたことを尊重し、書くことへの抵抗を減らす。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・話す・聞く能力や読む能力に関しては区の達成率を超えている。しかし、個人での差が大きく、個別指導が必要である。 ・国語辞典を使って言葉を調べることなど、言葉の学習に関して意欲的に取り組む姿が見られる。 ・書く能力については達成率70%に達することができていない。 ・国語への関心・意欲が区の目標値より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や日記など、文章を書くことへの抵抗感を少なくする。 ・文章の内容を読み取り、話し合いの視点をはっきりさせて意見を言える環境を整える。 ・漢字の読み書きが苦手な児童もいるので復習を重ねていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ作文を定期的にかかせ、良いところを認めることで書くことへの抵抗感を少なくする。また、その中で漢字の力も身に付けられるようにする。 ・文章を読む範囲を限定して考えさせたり、ヒントカードを活用したりして内容を読み取りやすくする。 ・話し合いの視点をはっきりさせるとともに、学習形態を工夫し、友達との意見交換をしやすくする。 ・家庭学習やミニテストを計画的に実施し、漢字や語彙の定着を図る。 ・図書時間を活用し、自分の読んだ本を紹介し合い、紹介し合う楽しさや読書への意欲を高める。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての領域で、達成率を上回っている。 ・苦手とする傾向があるのは、「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を書く」「言葉の学習」「調べた結果をもとに文章を書く」問題内容である。 ・物語文と比べて、説明文の読み取りを苦手としている児童が比較的多い。表を読み取り、文章で表す問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着率や語彙の量が少ない。練習量を増やし、また日常的に使っていく機会を増やす必要がある。 ・話す聞く力をもっと付けていかななくてはならない。人の話を注意深く聞く場面を増やしていく。 ・説明文では、文章の読み取りの他、表やグラフを読み取ったり、それを表現したりする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の宿題を出し漢字テストを行う。文を書くときに漢字を使うよう指示するなど日常的に漢字を使用する場を増やすことで、漢字の定着を図り、語彙を増やす。 ・学期に2回聞き取りテストを行う。普段の学習や生活の中で「話を意識して聞く」テストを行う。 ・ノートの指導を徹底し、個々に声かけをし、毎日きちんとノート執ることを常に意識させる。 ・説明文では、読んだ内容を活動に生かせるように意識付けを行って読むことで、意欲的に文章を読み取るようにする。図表を読み取る活動は、国語だけでなく他教科でも行っていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての領域で、たつ成立に上回っている。 ・「読むこと」は区の達成率を約6ポイント上回っている。 ・本を読むことが好きな児童が多く、幅広い分野の本を選んだり、集中して読書をしたりすることができる児童が多い。 ・作文など書くことに苦手意識をもつ児童が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着率や語彙の量が少ない。絶対的な練習量を増やしていく工夫や努力が必要である。 ・話す力、聞く力をもっとつけていく必要がある。分かりやすく言いたいことを絞って話せる、大事なところを落とさず聞けることが重要である。 ・目標値を下回った児童に対しての個に応じた指導・支援を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストや音読、読書、日記などの家庭学習を繰り返し継続して行う。難しい言葉や分からない言葉は辞書を活用して、日常の言語環境を豊かにしていく。 ・聞いたことをメモしたり文に書いたりすることで聞く力をつけるとともに、発表の機会も多く設ける。 ・個別に課題を出したり、補充教室を行ったりして、他教員と共通理解をし、個に応じた指導を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る問題は区の達成率は上回っている。 ・複数の資料をもとに文章を書き直す問題は区の達成率を下回っている。 ・幅広い分野の本を選んだり、集中して読書をしたりすることができない児童が多い1割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの文章を読み取るだけでなく、複数の資料を関連付けて読む力を育てることが必要である。 ・図書の時間、朝読書の時間に本に向き合い、静かに本を読む環境を作ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ作者や同じ主題の物語文を比較させたり、複数の説明文や資料を関連付けさせたりして、「関連付けて読む力」を身に付けさせていく。 ・8:25に静かに座って読書をするよう繰り返し指導し、朝読書の時間に静かに本を読ませる。図書の時間では、本の紹介やビブリオバトル等も取り入れ、図書館指導員と協力をして、6年生にふさわしい本への興味を広げていく。

(2) 社会科

社会科の重点

- 問題解決型の学習を通して、主体的・対話的な学びを意識した授業を創造し、思考力・判断力・表現力を育成していく。
- 地域等の人材を活用し、地域と連携した体験的な学習や行えるように工夫する。

	思考・判断・表現	技能	知識・理解
6年生	90.4	80.8	78.8

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、校内研究の主題である「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習をしている。自分の考えをもつこと、考えた内容を深めること、友達と議論することを重点において学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事象の見方・考え方、資料の活用のしかたを身に付けられるようにする。 ・児童が自分の住んでいる地域のことに関心を持ち、地域の人の願いや思い、また、商店・スーパーの工夫やそこで働く人の努力・苦勞について調べ、学習を進めるようにする。 ・自分の考えたことを基に、周りの友だちと話し合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図などの資料の読み方や辞書の活用の仕方を身に付けたり、社会的な事象が起こる理由を自ら考えたりする学習を展開する。 ・地域の人材、教材を開発し、地域に根差した学習を進められるようにする。 ・地図（中野区）や辞書を活用させ主体的に調べるようにさせる。 ・仕事の内容だけでなく、働く人へのインタビューや対話等を通して、働く人に視点が向けられるようにする。 ・児童が主体的に取り組めるよう、自分の考えをもった上で考えを伝えたり話し合ったりする活動を増やし、問い返しをしていくことで内容を深めていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業の主題である「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業に取り組んでいる。 ・各単元で学習問題を立て、意欲的に考え、調べ、まとめることができる。 ・東京都に関心を持ち、意欲的に学習に臨んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人や社会的な事象など、身近な事柄から疑問や考えを持ち、追究できるようにする。 ・資料を活用して、分からないことを自ら調べるとともに、資料を選ぶ力を付けていく。 ・調べたことや分かったことを整理し、文章や図などで表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用し、消防署や清掃局などの地域の施設とも連携し、見学等を通して体験的な学習が行えるようにする。 ・地図や辞書などを日常的に活用させるようにする。地図や写真、グラフなどの読み取り方が身に付くよう、教科書や本、ICTなどを活用する。調べ学習のための資料も準備する。 ・友達と意見を交流し、その意見を深化させるような発問をする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> 資料や経験から予想を立てることで、調べてみたいと思う意欲の高い児童が8割ほどいる。 調べる活動が好きな児童が多く、辞書や教科書、資料集を使って情報を集めて必要な情報を取り出し、まとめる力が高い。 知識・理解はあるが、前の学習と今の学習の内容を結び付けて考えることが苦手な児童が5割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元内や他単元との関係において、それぞれの学びを関連付けて考えることができるようにする。 資料を選択し、資料からわかることを読み取り、自分が考えたことを自分の言葉で表現し、自分の考えは他の児童の考えと比べてどうかを考えさせることで、思考力・表現力を伸ばしていくようにする。 調べたことから、その仕事に携わる方々の思いや願い、工夫や努力について自分の考えをまとめ、書く力をつけるための指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を結び付けて考えられる発問（「なぜ」「〇〇と〇〇にはどんな関係がありますか」など）をする。話し合いでも、児童の意見をつなげて、今の単元と以前の単元との共通点や友達の見え方や自分の意見との関係などが見えるようにしていく。 複数の資料を提示して読み取る活動を通し、共通点や相違点を話し合い、より深く理解ができるようにする。 ペアで自分の考えを伝え合ったり、話し合ったりする活動を増やし、自分の考えと他の児童の考えと比べる時間を設定していく。 問いに対して調べたことを基に自分の意見を書くために、キーワードを提示したり、話型を統一したりするとともに、人々の思いや願いを考えられるような問い返しをし、深く考えていけるよう指導にする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> どの分類、区分においても区の達成率を上回っている。 意識調査の結果では、「社会の出来事に興味もつ」「地域や国土のよさを大切にしようとする」児童が、平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の出来事に興味をもてるような指導の工夫が必要である。 地域や国土のよさに着目し、それを大切にしようとする意識を育てるような指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって身近な教材を開発する。 学習内容と現代の社会的事象の関連に気付けるように教材や発問を工夫する。 人々の願いや思いを考えさせたり、社会的事象と自分の生活との関連性に気付かせたりするような問いかけをすることで、地域や国土に愛着をもち、大切にしようとする意識を育てる。

(3) 算数科

算数科の重点

- 少人数による習熟度別の指導を展開し、個に応じたきめ細かい指導を充実させる。
- **問題解決型**の学習を取り入れ、児童が自ら考え解決し、**学び合いを通して検討するなかで、思考力・判断力・表現力を育てる。**

	数学的な考え方	技能	知識・理解
2年生	89.6	95.5	85.1
3年生	73.6	79.2	69.8
4年生	88.7	86.8	92.5
5年生	77.6	75.9	74.1
6年生	78.8	88.5	80.8

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算やひき算の定着には個人差が見られる。 ・算数ブロックや指などの補助を必要とする児童もいる。 ・ブロックなどの操作で計算ができてても言葉で説明できなかつたり立式することができなかつたりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を定着するための繰り返しの練習問題や、知識を活用する問題に取り組むことが必要である。 ・数の構成の理解を徹底し量的なイメージをもてるようにすることが必要である。 ・数量やその関係を言葉や図に表したり、立式したりできるようにすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用するなどし、視覚的に見て理解しやすくする。フラッシュ計算や計算カード、マス計算を日常的に、繰り返し行う。授業や家庭学習の中で、練習問題を取り入れる。 ・ブロックの操作などの算数的活動を多く取り入れ、数の構成を理解できるようにする。 ・全体で発表する前に、少人数グループで全員が発表する機会を設定し、安心して発表できるようにする。問題の読み方を学習し、求めていることや数と数の関係を考えることから立式していくことを指導する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査結果から、どの領域も達成率を上回っている児童が8割以上いる。 ・観点別では、知識・理解が他の観点に比べてやや低い。 ・領域別正答率では、他の領域に対して図形がやや低い。 ・量と測定の領域では、単位の理解が低い児童が2割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団解決したときは理解できているように見えるが、適用問題ではできていないことがある、学習内容を定着させる必要がある。 ・学習にかかる時間の個人差に対応する必要がある。 ・「長さ」と「水のかさ」の学習では、単位の関係を理解することが必要である。 ・単位の理解を深めるために量感を身に付けることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間や練習問題に取り組む時間を多く設定することで、学習内容を確実に身に付けることができるようにする。 ・問題の量や内容を個に応じて変えていくことで、確実に身に付けさせたい内容を理解できるようにする。 ・単位の関係は、授業の始めに、復習をする時間を継続して設定していく。 ・量感が身に付くように、体験的な活動を多く設定する。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、数学的な考えと技能が区の達成率を上回っている。 ・自ら進んで様々な考え方を見つけ出すことができている。 ・算数への苦手意識があり、自信がもてずに手を挙げられない児童も数名いる。 ・宿題の取り組みについては、計算ドリルや計算プリントを利用し、習慣化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を行う際は、ノートを見直させたり、発表させたりし、前時の内容やまとめなど既習内容を振り返ることで課題へ主体的に取り組む自力解決することができるようにする。 ・知識を定着させ、自信を持って意欲的に学習へ向えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、導入で前時に行った内容やまとめをノートや友達の発言をもとにし、確認する。新しい単元に入る際は、単元全体に興味を湧くような導入の工夫をしたり既習内容を振り返ったりして、意欲的に学習に入れるようにする。 ・課題解決型の学習（課題把握、自力解決、集団検討（ペア学習、全体発表（共有））、活用問題、学習の振り返り（まとめ））を取り入れて思考力と付ける。 ・自力解決でスモールステップを取り入れる。集団検討で問い返しをしたり話し合ったりする場を設定し、自信をもって学習に取り組めるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、全ての項目において区の達成率をかなり上回っている。 ・一方、学習への関心・意欲・態度は前年度に比べると下がっている児童が半分の割合でいる。「長さ」と「重さ」が区の達成率を下回っている。 ・個人差が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差への対応をする必要がある。 ・思考力・判断力・表現力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が不十分な児童へは、個別に指導したり前学年の復習から学習を行ったりして学習を進め、基礎力の向上に努める。 ・集団検討の場面では、多くの児童が自分の意見を発言し、みんなで追求できるよう、友達の意見を説明させたり、ペア学習を取り入れたりして、主体的な授業を行う。 ・「なぜ？」「どのように」等の問い返しをし「わかった」を大切にした授業展開を工夫する。 ・ドリルに取り組みせたり（家庭学習も含め）個別にプリントをさせたりすることで教師が確実に見取り評価することで、定着を図る。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域・観点においても、おおむね区・東京都の平均と同じである。 ・億と兆・がい数の表し方（数と計算）、面積（量と測定）の問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに迫るような課題を精選し自分の考えをもち表現できるような問題解決型の授業を創造する。 ・問題を読み取り、解決する力を付けるようにする。 ・学習の復習や補充教室等では、内容に偏ることなく、ドリルを活用して反復練習を行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能だけを指導するのではなく、考える楽しさが感じられるよう、一人一人の考えを大切に、集団検討で問題を解決し、考えを統合したりより良い方法を考えたりできるような授業を行う。 ・途中であきらめず、最後まで問題を読ませ、ペア学習等も取り入れながら、解決できるよう、導入の教材を工夫し、個別に声をかけて考えさせる。 ・ドリル学習やプリントを解く時にも「なぜこのように解いたのか」「この問題の解き方はさっきの解き方と違って」などを振り返らせ、思考力を深めることができるような解き方をするような問いかけをする。 ・個別指導が必要な児童は家庭学習や補充教室等で復習から学習を行っていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域・観点においても中野区の達成率を上回っている。 ・内容別では、「単位量当たりの大きさ」が 65.4%「百分率とグラフ」が 44.0%と低い正答率になっている。 ・授業では、自力解決ができない、検討の場面で考えが多岐に渡らないなど、授業の中で問題を話し合っ解決できないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題をしっかり読み、自分で考え解決しようとする姿勢が弱いところに課題がある。 ・単位量当たりの大きさと百分率とグラフは内容的につながっているため、割合の考え方を理解することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、問題をノートに書かせるときに既習の内容とつなげて考えるよう助言する。わからないときにすぐ友達に聞くのではなく、自分で問題を解く時間を確保する。 ・割合の学習は、繰り返し出てくるので（「比と比の値」「拡大図と縮図」「比例と反比例」）その都度、「もとにする量」「くらべる量」「割合」を意識し、数直線を活用して、割合の考えが定着するようにする。既習の内容を振り返らせるような問いかけをし、単元の終わりに横断的な問題を提示し、習熟を確認する。 ・授業内で視覚的にとらえさせる教材を用意し活用する。

(4) 理科

理科の重点

- 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ見通しをもって観察、実験などを行う。
- 自然の事物・現象について科学的に問題を解決する力を育てる。

	思考・表現	技能	知識・理解
6年生	78.8	76.9	75.0

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な活動を多く取り入れることで意欲をもって取り組むことができている。 ・ 植物や昆虫などにも興味をもつことができている。 ・ ゴムや風の働きでは、実験の結果から考えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、意欲をもって学習に取り組めるように実験や観察の条件を整える。 ・ 理科を学ぶ最初の段階のため、ノート指導をきちんと行う必要がある。 ・ 実験結果や観察したことを比べることを通して「違い」や「共通点」に気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が実験や観察、栽培や飼育をする中で「なぜだろう」という場面を作り、また問い返していくことでより主体的に学習に取り組めるようにする。 ・ 項目分けや色分けをすることで板書を構造化し、ノート指導につなげていく。 ・ 児童一人一人が実験を十分に行えるように、個々の教材を用意するなど工夫する。観察の際には、前回の観察と比べて変化したところなど観察の視点を意識させて観察できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験などに意欲的に取り組む。実験で何を調べるかを確認することで意欲も高まっている。 ・ 結果から分かることを「考察」としてまとめることを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的な事象を意識して解決する問題を、児童自身からさらに積極的に作り出せるようにする。 ・ 分かったことや考えたことを整理して表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前に児童を集めて説明をしたり、教材提示装置を活用して見せたりするなどの効果的な事象提示をし、正しい結果が出せる実験を心掛ける。予備実験を行い、さらに効果的な実験を用意する。 ・ 文例やねらいの言葉を使った話型を提示したり、図を使っても良いことを伝えたりして、分かったことをまとめられるようにする。友達のまとめを参考にできるように、交流する時間を設定する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への意欲が高く、興味をもって実験や観察に取り組んでいる。 ・ 問題に対する仮説を立てる時に自分の経験や事前実験を基に考え、実験の結果から考察をし、まとめることができる。 ・ 実験器具の名前を知らなかったり使い方がよくわからなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを全体の場合や周囲の児童に伝え合い、理解を深めることができるようにする必要がある。 ・ 観察や実験器具の技能を確実に身に付けられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペア学習や班学習など、必要に応じて話し合いのできる場を設定する。児童が自分の意見を伝え、自分の意見と他の児童の意見を比べて考える時間を意図的に設定する。問い返しをし、考えや理解を深めることができるようにする。 ・ 繰り返し実験したり観察したりできる教材を考え、操作する機会を設定する。つまずきが見られた時点で既習事項に立ち戻る機会を設定したり、確実に実験したりする。

6年

- ・校内平均正答率が区の平均正答率より 0.1 ポイント下回っている。観点別の知識・理解の正答率が 1.7 ポイント低いことと関係していると考えられる。
- ・内容別正答率では、5 年生前半に行った学習内容の正答率が区の平均の正答率を 2 ポイント近く下回っている。

- ・継続して観察をすることに課題があるので、観察から結果を導き出せるようにする。
- ・「結果」から「考察」し、実験や観察で学ぶべき内容を自分の言葉でまとめることができるようにする。

- ・観察のポイントを確認し、一人一人が責任をもって観察できるよう助言する。
- ・「問題」→「仮説」→「実験、観察」→「結果」→「考察」という学習の流れを大切にする。正しい結果が出なくてもなぜ正しくないのかを問い返し、全体で検討して、再度実験をしたり、教科書で正しい結果を確認し合ったりする。また、考察はねらいに基づき、自分の言葉で書き、確認することで内容を理解できるようにする。

(5) 生活科

生活科の重点

具体的な活動や体験を通して 自立への基礎を養う。

- 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもたせる。
- 自分自身や自分の生活について考えさせる。
- 生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物に興味をもてるような導入を工夫したことで、アサガオの成長の変化を楽しみながら植物を育てていこうとする意欲が高まっている。 ・ 学校探検を繰り返し行うことで、自分の学校に対する愛着が湧き、教職員と進んで挨拶したり、関わろうとしたりする姿が見られる。 ・ カードの書き方を学んだことで、書くことに対して意欲がもてるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動への意欲は高いが、それを持続することに課題があり、意欲が持続できる工夫が必要である。 ・ 自分と身近な人々と進んでかかわり、意欲的に学習する力を身に付ける必要がある。 ・ 自分と身近な自然や生き物に興味をもったり、大切にしようとしたりできるようにする必要がある。 ・ カードの文字で書く部分に苦手意識のある児童がいるので、今後もカードの書き方を繰り返し学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に児童の思いや気付きを予想しておき、つぶやきや行動を生かしながら次の活動につなげることで、意欲的に活動できるようにする。 ・ 地域の人材や環境を生かして、校庭や公園などの場所で、繰り返し遊ぶことを通して、身近な自然などに興味をもてるようにする。 ・ 学校探検などで他学年や教職員とかかわる機会を増やし、進んで交流できるようにする。 ・ ねらいに沿った内容が書けるよう問いかけの工夫をする。カードに表現されている内容を肯定的に受け止め、発言や絵の表現から教員が児童の伝えたいことを理解し、合わせて表現方法も指導していく。

- ・野菜を育てる活動を通して、野菜の成長に関心を持ち、かかわろうとする気持ちが高い。
- ・野菜の成長の様子をカードに表現できる児童と、上手く表現できない児童との個人差がある。
- ・野菜や生き物の世話を通し自分の成長に気付くことができない児童が3割ほどいる。
- ・まち探検では、導入の写真を工夫したことで、まち探検をしたいという意欲を高めることができた。
- ・まち探検では、自分の住んでいる地域には、いろいろな不思議があることに気付いている児童が9割ほどいる。

- ・野菜や生き物を育てる活動で、単元を通して意欲が持続できるようにする。
- ・気付いたことをカードに記録したり友達に伝えたり、上手く表現したりできるようにする。
- ・自分と地域、場所や、そこで生活している人々との関わりに気付けるような活動をする。

- ・児童の学習意欲が継続するように、児童が「もっと知りたい」「調べたい」と思うような問題の提示や問いかけ・問い返しを意図的に行っていく。
- ・表現することが苦手な児童には、教師に気付いたことや書きたいことを話してから書いたり、絵や図で表現したりするように促す。
- ・自分との関わりや自分の成長に気付けるような発問や言葉かけを増やしていく。
- ・教員が事前に地域探検を行い、教材を開発する。地域のお店などと連携し、地域のお店に行ったり、そこで働いている人や利用している人や家族にインタビューをしたりしたくなるような問い返しをし、まち探検で実際にインタビューをする機会を設ける。

(6) 音楽科

音楽科の重点

表現や鑑賞の活動を通して、音楽に対する興味関心をもち、意欲的・積極的に活動できるようにする。

音楽活動の基礎的な能力を培い、様々な音楽に親しみながら思いや意図をもって表現の工夫ができるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく主体的に取り組んでいる児童が多い。 ・元気よくリズムにのって、楽しく歌うことができる。 ・鍵盤ハーモニカの演奏に意欲的に取り組んでいる。 ・リズムを模倣することが苦手な児童が15%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いのままに歌ったり、友達と声を合わせようとしなかったりする児童もいるので、友達と声や気持ちをそろえる気持ちをもてるようにする。 ・鍵盤ハーモニカを演奏する際、正しい指使いやタンギングで演奏できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を思い浮かべて歌ったり、楽曲の気分を感じ取ってきいたりできるように、視覚的な提示物なども活用し、分かりやすい説明や例示をする。 ・主体的に演奏する活動に取り組めるよう、鍵盤ハーモニカだけでなくいろいろな楽器も取り入れていく。 ・ICTを活用し、指の形や指番号を視覚的にわかりやすく示す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな曲も楽しく歌ったり、演奏したりすることができる。 ・音の高さやリズムに気を付けて意欲的に歌ったり演奏したりする活動に取り組んでいる。 ・器楽の技能に個人差があり、思うように演奏することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じに合わせた声の出し方が難しいと感じている子や、友達と歌ったり演奏したりすると集中できない子には、曲想をしっかりとつかませたり歌詞の表す情景を思いうかべたりできるような手立てが必要である。 ・鍵盤ハーモニカの演奏では、運指やタンギングに気を付けて演奏できるよう段階を踏んで指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵や写真を提示したり、歌詞の意味を理解できるよう助言し、よさやおもしろさを感じて歌ったり演奏したりできるようにする。 ・音の高さやリズムが分かりやすい図形譜や体の動きを取り入れて楽しく表現の技能が身に付くようにする。 ・鍵盤ハーモニカを練習する際には、階名読み→運指の確認→1フレーズごとに演奏するようという順序で練習する。

3年	<ul style="list-style-type: none"> 音程やリズムに気を付け声の出し方を意識しながら友達と声を合わせてのびのびと歌えるようになってきた。 リコーダーは、運指やタンギングに気を付け、演奏できる。息の調節が難しい児童も数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図を言葉で伝えたり、繰り返し歌ったりしながら、曲の特徴を捉えた表現の工夫ができるように指導していく必要がある。 リコーダーの演奏では、良い音色を目指し、お腹の支えを意識して息の調節ができるように繰り返し何度も練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を読んだり、情景を考えたりする時間をとり、歌詞の表しているものを読み取れるようにする。 表現の仕方を比較する場面を設け児童に確かめさせたり、よい表現の児童を賞讃し、全体の中で価値付けたりして、共有化を図っていく。 リコーダーは運指やタンギングに気を付けて丁寧に演奏できるよう、毎回練習時間を確保し、配慮が必要な児童には個別に指導を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 発声の仕方に気を付けながら自然で無理のない声で歌うことができる児童が多い。一方、自信がもてずに声を思い通りに出せない児童も数名いる。 リコーダーの演奏にも意欲的で、サミングの仕方を覚えいろいろな曲に取り組んでいるが、楽譜を読むことが苦手と感じている児童や運指が思うようにいかないと感じている児童が若干見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> フレーズや歌詞の内容を意識した歌い方や効果的な呼吸や発声ができるようにし、楽曲にあった表現の工夫ができるようにしていく必要がある。 楽譜を読むことが苦手な児童は、楽器の練習に取りかかるまでに時間を要し、思うように練習できないことがある。何度でも演奏したい、できたら楽しいと思う楽曲や教材を扱い、興味関心を持たせていく必要がある。 リコーダーだけでなく、器楽の基礎的な技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 器楽の基礎的な技能を指導徹底し、練習形態や教材に変化をもたせながら興味関心をもって主体的に活動ができるようにする。 強弱や速さ、表現の幅動作を取り入れるなど分かりやすく取り組みやすい発声練習をする。 グループでの活動も取り入れ、かかわり合って練習したり、発表したりする場面をつくる。 器楽の基礎的な技能を指導徹底し、練習形態や教材に変化をもたせながら興味関心をもって主体的に活動ができるようにする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて歌ったり楽器を演奏したりすることに意欲的であり、気持ちよく活動できる児童が多い。 ・1つの楽曲に対し根気よく仕上げたいこうとする力がついてきた。 ・リコーダーの演奏では、2つのパートに分かれて互いの音を聴き合いながら演奏できるようになってきた。 ・鍵盤楽器や打楽器の演奏は、技能に若干の差があるものの、ほとんどの児童が演奏できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸や発音の仕方に気を付けたり、音程を意識したりして、全体で声をそろえて歌えるようにする。 ・各パートの役割や、全体の響きに着目して、思いや意図をもって表現の工夫ができるようにしていく。 ・鼓笛の活動につなげるため読譜力やリズム感が向上するようにする。 ・全体としての演奏力をさらに高めていくために、様々な場面で着実な技能の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の導入時に発声練習やリズム練習をする場面を設定し、スムーズに歌唱の活動ができるようにする。 ・効果的な発問をすることにより、情景を話し合ったり、思いや意図をもって表現の工夫をしたりする時間を確保する。音楽の要素を感じ取り表現に生かせるようにする。 ・表現することの楽しさを味わえるように教材の多様化をはかる。 ・十分に自身の技能を高める時間を確保する。また、一斉・グループ・ペアという練習形態を組み合わせ、互いに聴き合う場面や発表の場を題材ごとに設定して、効率的に活動させる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の表す情景や気持ちを表現して歌うことができるようになってきた。 ・全体的に読譜力がついてきた。リコーダーや鍵盤楽器の演奏に意欲的に取り組み、全体で音を合わせて演奏することの楽しさを味わうことができる児童が増えてきた。 ・音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気付いて音楽を聴くことができる児童がまだ多くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の質や音の重なりに着目し、フレーズ感や強弱を意識して歌えるようにする。 ・互いに演奏を聴き合ったり、そのよさを感じ取って自分の演奏に生かしたり、さらに技能を高めていく場面を設定する。 ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことの理由を特徴付けている要素や音楽の仕組みに結び付けて自分なりの言葉で表すことができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現にふさわしい発声の仕方や息のスピードに気を付け、響きのある声で歌えるよう、毎時間の導入時には学習活動に合った発声練習を行う。演奏形態や教材に変化をもたせながら、互いの音を聴き合い、友達と協力して演奏し、より豊かな表現ができるようにする。 ・楽曲との出会いを大切にし、共通事項を手がかりにしながら楽曲の構造を理解して聴く能力がつくよう発問の内容や聴かせ方を工夫する。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな感性を培う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 活動に集中して取り組むことができる児童がいる一方、数名集中できない児童が2割いる。 友だちとかかわり合いながら造形活動を広げていくことができる児童とそうでない児童に差が見られる。 活動内容を聞き、理解する事に時間がかかる児童が4割いる。 発想・技能面ともに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刺激物を少なくし、道具を予め配布するなど、席に座って集中して活動できる時間をのばす必要がある。 生活経験の差が大きいため、用具の扱い方に、個人差がある。丁寧な指導が必要である。 相手との関わり方・距離感を丁寧に指導していく必要がある。 言葉とイメージの結びつきが弱いので、発想を引き出すための手立てを打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用具を繰り返し使えるよう、1時間の指導内容を整理し、教えるべきことを明確にし、道具を取りに行く導線を整理しておく。 落ち着いて授業に取り組めるように個人の活動を主とし、グループで活動する時は、教師から活動の役割を伝え、徹底する。 児童の言葉とイメージを結びつける短い鑑賞活動を意識的に授業へ取り入れる教材の工夫を行う。 材料からも発想ができるような造形遊びの教材を用意する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 9割の児童が自分の活動に根気強く取り組むことができる。 友だちとかかわり合いながら造形活動を広げていくことができる。 感じたことを自分の言葉で伝えることが苦手な児童が4割いる。 技能面の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を明確にし、作業の順序を板書し、安心して取り組める環境作りを行う。 感じたことを自分の言葉で伝えることが苦手な児童への手立てが必要である。 用具の操作の習得に差があるため、個別の指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料そのものから発想が広がるような教材を用意し、造形遊びを取り入れていく。 児童がイメージし、表現したことに対して、いくつか例示を示すとともに教師が言葉で表現したり、問い返しをしたり、具体的に称賛したりしていく。 基本的な用具を繰り返し使えるよう、1時間の指導内容を整理し、指導すべきことを教師が明確にしておく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> のびのびと意欲的に活動に取り組み、意欲関心は高いが、技術面の差は大きい。 友だちとかかわり合いながら、造形活動を広げていくことができる。 友だちのよさに注目して自分の作品や活動に取り入れることができる。 発想・技能面ともに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを大切に、色と形に置き換えていく表現に、自信をもって取り組めるようにすると共に、楽しむだけでなく丁寧に完成させる指導を行う。 個別の指導が必要な児童には全体指導後に、個別指導を行う。 指示を明確にし、板書を活用して、児童が進捗状況を振り返りながら活動できるように、支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉とイメージ、イメージと色や形を結びつけられるよう、児童にとって身近な内容を題材に取り入れる。 道具を繰り返し使う場面を設定し、その都度課題をスモールステップで高めていく。また、関連する写真や絵など具体的な映像を見せたり、問い返しをすることで表現に結びつけやすくする。 間違えたという意識をもつと進めなくなる児童には、繰り返かえし挑戦してよいことを知らせ、自信をもたせる。また、苦手意識をもちにくい題材を計画する。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい材料や用具の扱いに意欲的に取り組んでいる。 ・9割の児童が自分の活動に根気強く取り組むことができる。 ・鑑賞活動では友だちのよさを発見し、伝えることに喜びを感じている。 ・発想・技能面ともに全体的に高いが、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の表現に自信をもち、自分なりのイメージを広げていけるようにする。 ・枠にとらわれず、表現の自由、自分なりの表し方を大切にできるようにする。 ・発想段階にあった自分の思いをもてるようにする。 ・達成感を感じられるような題材を設定していく。 ・全体指導の後に個人指導を行い、つまずきがちな児童への支援を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって興味・関心をもつことができる題材を計画的に取り入れる。 ・鑑賞活動を組み込んだ題材を取り入れ、視覚的にも美術に親しめるようにする。 ・道具の基礎的な使い方を復習させ、表現できる技能の幅を広げる。 ・技術面の壁になる教材を用意し、達成感を味わえるようにする。 ・絵の具の使い方や塗り方を、細かく丁寧にやる良さを教える。 ・発想段階で迷ってしまう児童には、机間指導で個別に助言し、アイディアが浮かぶよう一緒に考えたり、問い返しをしたりする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心が高く、どの題材にも積極的に取り組む。 ・平面作品に苦手意識を持っている児童が5割いる。 ・活動に集中するまでに時間がかかる児童が2割いる。 ・技術面・進行速度に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよくしよう、という意志や一定の表現が完成した後の努力が持続するようにする。 ・自分の発想に自信をもてるようにする。 ・発想したことを表せるようにする。 ・こだわりすぎて進まない児童には授業の見通しをもたせ、時間内に進める内容を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって興味・関心をもつことができる題材を計画的に取り入れる。板書や導入を簡潔にわかりやすくする。 ・互いのよさを認めあえるように鑑賞活動を組み込んだ題材を取り入れる。 ・道具の基礎的な使い方を復習させ、発想したことを形にできるようにする。 ・児童のイメージを広げやすいように題材を工夫し、意欲的に取り組めるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組んでいる。 ・友だちの活動を興味・関心をもって見ている。 ・クラスによって集中度にばらつきがみられる。 ・活動に集中するまでに時間がかかる児童が4割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで培ってきた技術を用いて、色々な課題に挑戦しようとする姿勢をもつようにする。 ・自分の発想に自信を持たせる声かけや場面設定を行う。 ・児童が集中して活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを形にできるような題材の開発・設定を行う。 ・比較的、自由に自分の学んできた技術を用いて題材に取り組めるように設定する。 ・児童が自分の作品について語るような発表の場を意図的に作るなど作品に対する意欲と自信を高められるようにする。 ・児童のイメージを広げやすい題材を工夫したり、問い返しをしたりして、意欲的に取り組めるようにする。 ・児童の実態に合わせて、導入や板書の書き方を変え、集中力を維持できる環境をつくる。

(8) 家庭科

家庭科の重点

日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身につけ、家庭生活への関心・意欲・態度を高め、生活をよりよくしようと工夫する態度を養う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫やミシン、調理など、生活に必要な基礎的な知識や技能に対する興味、関心が高い。 裁縫などの細かい作業が難しい児童がいるため、確実に技能を習得させる必要がある。 学習したことを日常生活に生かそうとする児童は10パーセントほどしかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識や技術を定着させることに時間をかける必要がある。 周囲の友だちと協力したり、教え合ったりして技能を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大した教材や手元が分かるように視聴覚機器を使用し、説明の仕方を工夫して丁寧に指導をする。 子ども同士での学び合いを取り入れるなど授業の組み立てを工夫する。 苦手な児童に対して、個別指導を中心に丁寧に指導し、課題に対して「できた」「楽しい」という意識をもてるよう支援する。 家庭学習などで裁縫の技術や調理の手伝い等を意図的に取り入れたり、日常を意識した問いかけをしたりして、日常生活で実践してできたことへの喜びを味わわせるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童は授業に意欲的に取り組む。 家庭での生活経験と学習内容（料理や掃除など）とを結びつけて考えることができる。 学習したことを生かして、自分の家庭生活をよりよくしていこうと考えたり、実際に取り組んだりする児童は30パーセント程度しかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した知識をまとめるだけでなく、家庭生活のどの場面で、どのようなことをするか、考えさせる。 学習したことを生かして家庭で取り組んだことを発表させ、そのよさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の振り返りや単元のまとめで、児童が家庭生活での実践につなげられるように具体的な例を挙げたり各自の経験の話をさせたり、日常を意識した問いかけをしたりする等の工夫をする。 家庭学習などで裁縫の技術や調理の手伝い等を意図的に取り入れ、家庭で実践したことを伝え合う場を設定し、家庭生活をよりよくしていこうとする意識を高めていけるようにする。

(9) 体育科

体育科の重点

体を動かす楽しさを味わいながら、発達段階に合わせた運動を通して、「技能」「思考力・判断力」を高めていく。

振り返りを通し、学び合いながら課題を解決していくことで思考力を高める授業を創造していく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育が好きな児童が8割以上いて、学習に意欲的に取り組んでいる。ボールを投げる動きの経験値に差が大きい。 ・休み時間に進んで体を動かす児童とそうでない児童の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうことが必要である。 ・いろいろな動きを価値付けしながら教えていく必要がある。 ・遊びを通してたくさんの動きを経験する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる動きを準備運動や体づくり運動に取り入れることで、動きを身に付けやすくする。 ・遊びやゲームを通して、動きやルールを工夫する力を身に付けられるようにする。 ・授業でのポイントになるような問いかけのもと、振り返りをし、友達のよいところを見つけながら思考力を付けていくようにする。 ・休み時間に声をかけ合うなどの環境を整備し、遊具等も使って校庭で遊ぶよう促す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても、運動に進んで取り組む児童が多い。 ・楽しく遊ぶことができるように、場や遊び方を工夫することができる児童が多い。 ・学習をする上で基本となる学習態度がなかなか定着しない児童が数人いる。 ・体育の授業は楽しめているが、「自分は運動が苦手だ。」と感じている児童が数人いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整列、集合、あいさつ、規則を守る、など体育の学習をするうえで基本を身に付ける。 ・運動への苦手感を取り除く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、学年で学習のきまりや遊びの規則を明確にして児童に提示する。 ・主の運動遊びに入る前に、その運動につながる補助的な運動遊びを入れたり、運動が苦手な児童にとっても、1時間目から楽しめるような魅力ある教材を提示したり、指導の工夫をしていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習だけでなく、体を動かすことが好きな児童が約9割以上いる。 ・学習にも意欲的に取り組んでいる。 ・課題としては立ち幅跳び、ソフトボール投げを高めることである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敏捷性や投力の個人差が大きい。 ・勝負の勝ち負けにこだわりすぎず、勝ち負けが受け入れられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら活動を行い、結果的に身に付けさせたい力や敏捷性、投力も高まるように動きの中でポイントを伝えたり、問いかけをしたりして、振り返りをし、指導していく。 ・思考力を高められるよう、学習の途中に必ず課題解決を図る時間を設けていく。 ・ゲームを行う時にフェアプレーを意識させる。また、ゲームなど勝負を増やし、勝ち負けを受け入れられる場面を用意していく。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9割以上の児童は体育が好きだと感じていて、学習に意欲的に取り組んでいる。 ・ 体力テストの結果、全種目とも全国平均の水準に達しており、バランスのとれた体力づくりができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋持久力や柔軟性を伸ばす必要がある。 ・ ボールゲームにおいて、苦手意識をなくし、意欲的に運動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体づくり運動等で筋持久力や柔軟性が養われる運動を取り入れ、運動のポイントに気付かせるような問いをしていく。 ・ 振り返りを通し、自分のめあてをもって学習に取り組む。ペア学習を取り入れ、得意な児童も苦手な児童もアドバイスし合いながら、共に学べるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業を楽しみ、進んで取り組んでいる児童が9割程度いる。 ・ 友達にやり方のコツやポイントをアドバイスしたり、聞いたりして進んで学習する児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて取り組む活動や苦手な活動に対しても「やってみよう」と意欲がもてる活動を工夫する。 ・ 少しでも「できた」「やってみよう」と感じられる、声かけや場の設定を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が課題にあった場を選んで学習できるよう、いろいろな場や道具を準備する。 ・ ペア・トリオ・チーム学習を取り入れる。互いに励ましたり、アドバイスをし合う場面でICTを活用して良い所や改善すべきところを伝えたりして、友達と助け合って学習する場面を増やす。 ・ 運動が苦手な児童も楽しく学習に取り組めるような雰囲気づくりやオノマトペを活用して行う教材の工夫を行ったりする。 ・ 見通しをもたせる、スモールステップで取り組む、運動のポイントに気付かせるような問いかけをするなどして、前向きに学習できる環境をつくる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・ 90%以上の児童が友達にアドバイスしたり、聞いたりして、協力することができる。 ・ 規則や勝敗を受け入れられなかったり、気持ちのよい声かけができなかったりする児童が各クラス1割程度して、トラブルになることが多い。 ・ 個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果だけでなく、努力や成長、仲間と運動する楽しさに目を向けられるような指導が必要である。 ・ 運動が苦手な児童に対する支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の努力や成長を積極的に認めるとともに、チームワークよく楽しく活動できたグループを紹介し、そのよさを広げていく。 ・ 運動が苦手な児童への個別の声かけをする。例えばマットでは後転がしやすいように坂を作ったマットを活用するなど、工夫した教具を用意する。運動のポイントに気付かせるような問いかけをする。

- 夏休み中に先生方に作ってもらい、9月中旬までにまとめて、校長先生にみてもらう。
直しが必ず入るので、早めに一度見てもらうことがポイント！
言葉や形式的な直が多いので、学年に返すより、教務が作ってしまった方が時間のロスがない。
- 現状分析については、数値化していく。
×：たくさんいる 少しいる 概ねできている
○：75% 4.5人 9割以上
- 指導上の課題に、実態が入らないよう気を付ける。
- 今年度は、校内研究の関係から「問い」「教材の工夫」がキーワードになった。どの教科にも「問い・問いかけ・問い直し」「教材の工夫」「教材の開発」を入れるようにした。
- 具体的な方法や場面について詳しく書くよう、チェックが入った。
- 見た目の直しが入らないよう、行をそろえるとか、フォントをそろえるとかは、はじめにチェックしておく
と良い。